

中国東沿岸部農村地域高齢在宅サービスの 現状と課題

—浙江省農村地域を事例として—

ZHU Yudan

2015年6月10日、中国民政部が発表した最新の「2014年社会服務發展統計公報」によると、中国の60歳以上の高齢者人口は、総人口の15.5%に当る2億1241万人に達した。高齢化社会が農村地域にも大きな変化をもたらした。

昔から、中国の農村部における高齢介護は、ほとんど家族介護に依存してきた。従来より、中国農村地域の高齢者の暮らし方は大きく三つに分けられている。一つは全世代との同居である——眠りも食事も全世代と一緒に、家計などに関わることを子どもが決め、老人たちは家事をしながら、小さい子の世話をする。もう一つは子どもとの別居である——老親は農地の使用権を子どもに譲り、定期的に親に生活用品や生活費を送る子どもに扶養される。このような場合は、普通、子どもが老人たちの近くに住んでいる。最後の一つは、老人の独居である——自分が持っている水田で農作物を植えたり、養殖などをしたり、自分の力で生きている。

しかし、近年のグローバル化や都市化、産業化の加速により、都市部への進出稼ぎ、核家族化、また産業構造の変化が農村住民のライフスタイルに大きな衝撃を与えた。農地面積が減り、農業をする人口も減っている。第二次第三次産業に携わる人が主流となっている。若年層は都市部に移住し、定住する傾向がある。上記の三つの暮らし方には、子どもの協力あるいは老人自身の健康な状態が不可欠だが、生活様式が変化し、家族同居で老親を助成の家族員が介護するという伝統的な介護形態も次第に崩れてきている。

家族介護能力の弱화에連れて、介護の社会化が求められるようになってきている。しかしながら、農村地域の高齢福祉制度は未整備で、福祉サービスの実態も良くないと指摘されている。2012年7月1日から実行に移された「都市・農村部住民の養老保険」によると、満60歳の農村

住民は、国の財政支出から一人当たり毎月 55 元(年間では 660 元)の老齢年金を受け取る。ところが、この金額ではほとんど役に立たない。中国国家统计局のデータによれば、2014 年末までに、全国農村住民の費用支出は年間一人当たり 8382.57 元であると発表されているからである。年金が低く、施設の利用料金が払えないのは現実である一方、数多い高齢者は施設に入りたくないと思っている。子どもがおらず、そして障害や重度な疾病を持っている高齢者は施設に入らざるを得ないが、多数の人は住み慣れた居住地で子世代との同居を望んでいる。「自らの家に住み続けたい」という意識がまだまだ根強く、在宅介護が求められている。

本研究では、中国農村部高齢者の暮しの実態やこれまでの介護サービスの現状を明らかにする。さらに浙江省農村地域をターゲットとして、在宅高齢者の現状と高齢福祉制度の実態を明らかにし、中国沿岸部農村地域における介護サービスを補完する方策について考察したい。

第 1 章では、近年農村地域の変化が農村住民の高齢介護にもたらした変化を分析する。まずは家族構成の変化からの影響により、家族間の高齢介護の責任及び役割の移行に触れ、そして、家計経済と農村住民の健康状態及び健康意識と介護認識の変化に触れ、その上で農村住民が望む介護サービスの様子を検討する。

第 2 章では、中国政府の福祉に関する政策指針をまとめ、そして浙江省を焦点にして、政策指針の実施状況を考察する。福祉に関する政策指針を中央政府、省政府(浙江省)、地方政府(湖州市)の 3 つの部分に分け、国が出すマクロな政策から地方政府が出すマイクロな政策まで分析し、これからの行政の方向を明らかにする。

第 3 章では、今まで中国各地に既存するモデルを選んで分析する。更に先進的な事例を紹介し、普及する可能性を分析する。

第 4 章では、浙江省の高齢者の生活実態と養老意識を把握するために行った調査に関する内容を紹介する。調査の対象地域は浙江省北部にある湖州市である。湖州市が行政的に区画した 6 つの農村地域から一村ずつを選んで、調査を行った。6 つの村の内、2 つの村(A 村と B 村)新農村建設が進んだ新しい農村で、残りの 4 つの村(C 村 D 村 E 村 F 村)は新農村建設が進んでいない伝統農村地域である。6 つの村からそれぞれ 65 歳以上の高齢者 10 人を無作為に選んで訪問調査とインタビューを行った結果をまとめ、それぞれの地域から対象者の例を紹介し、新農村地域と伝統農村地域の高齢者の生活実態と養老意識を把握する。

そして、最後に全体を踏まえて、新農村地域と伝統農村地域に分け、それぞれの地域に期待できる在宅養老サービスの様子を検討する。